令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書／事後評価書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	特定非営利活動法人鳥の劇場
施設名	鳥の劇場
内定額	24,290　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
公-01	笑いながら考える世界のこれから『イワンのばか』	R7/4/29～5/11	鳥の劇場
公-02	三島由紀夫生誕100年『熊野』	R7/10/11～10/12	鳥の劇場
公-03	シェイクスピアの美しきラブコメ『十二夜』	R8/2/14～3/1	鳥の劇場
人-01	演劇創作を通じて、自分で考え自分で行動する子どもを育てる「小鳥の学校」	R7/6/21～R8/3/22 <発表公演R8/3/21・22>	鳥の劇場
人-02	65歳以上の“おとなな”方たちと創るリーディング上演「おとなな劇場」	R8/3/14～15	鳥の劇場スタジオ
普-01	みんなで楽しもう！表現ワークショップ	R7/4/29～5/11	鳥の劇場
普-02	鹿野タイムスリップツアー『チドリの夢 デラックス』	R7/9/20・9/21	鳥の劇場周辺
普-03	劇場がお化け屋敷・ほんきのきもだめし	R7/8/10	鳥の劇場
普-04	劇場が身近にあることを楽しむ「演劇クラブ」運営事業	R7/5/1～2/28	鳥の劇場

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1．事業本数】

項　　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業		12	22	20
		公演事業	4	6	4
		（内、本助成対象事業本数）	3	3	3
		人材養成事業	2	2	3
		（内、本助成対象事業本数）	2	2	2
		普及啓発事業	1	8	5
		（内、本助成対象事業本数）	0	3	4
		共生社会事業			
		（内、本助成対象事業本数）			
		その他　内容：　朗読教室、農園事業、WSなど	5	6	8

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2．貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	0	0	0
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3．施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数		4,230	4,300	4,437
		公演事業	3,686	3,700	1,990
		人材養成事業	303	330	1,659
		普及啓発事業	80	90	702
		共生社会事業			
		その他　内容：WS等	161	180	86
	貸館事業入場者・参加者数		0	0	0
	その他　内容：受託・共済事業、修学旅行、見学等、		2,368	2,500	10,384
	計		6,598	6,800	14,821
開館日数			354	354	354
施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数））			354	354	354
施設の利用日数			354	354	354
施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数）			100.0%	100.0%	100.0%

備考	
	R7年度のその他の数が例年より多くなったのは、令和7年度より集計人数をより正確に把握できるように集計方法を変更したため。 また、【4公演データ】の事業本数欄に人材や普及の公演本数を含めていたので、公演事業の本数のみに統一します。 共催・提携公演の事業本数も、R7年度欄は演劇祭を1事業として数えていましたが、従来通り演劇祭の中の事業数で数字を拾うこととしました。 R7は三カ国共同の演劇祭だったので本数は多くなっています。

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	4	39	3,686	4						
	共催・提携公演（※2）	9	19	1,456	9						
	貸館公演	0	0	0							
	計	13	58	5,142							
令和6年度	主催公演（※1）	6	50	3,700	6						
	共催・提携公演（※2）	9	20	1,500	9						
	貸館公演	0	0	0							
	計	15	70	5,200							
令和7年度	主催公演（※1）	4	23	1,990	4						
	共催・提携公演（※2）	17	38	3,707	17						
	貸館公演	0	0	0							
	計	21	61	5,697							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

・公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
・入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
・有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	笑いながら考える世界のこれから『イワンのばか』	目標値	1,210	68.8%	観客の満足度（アンケート）	回収されたアンケート5段階の「満足以上（満足・大変満足）」が75%以上	87.60%
		実績値	762	43.2%			314件の回答のうち76件が満足、199件が大変満足という回答を得られた
公-02	三島由紀夫生誕100年『熊野』	目標値	220	68.8%	観客の満足度（アンケート）	回収されたアンケート5段階の「満足以上（満足・大変満足）」が75%以上	93.50%
		実績値	169	52.8%			31件の回答のうち15件が満足、14件が大変満足という回答を得られた
公-03	シェイクスピアの美しきラブコメ『十二夜』	目標値	900	62.5%	観客の満足度（アンケート）	回収されたアンケート5段階の「満足以上（満足・大変満足）」が75%以上	96%
		実績値	566	44.2%			255件の回答のうち80件が満足、165件が大変満足という回答を得られた
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書／事後評価書

②（評価・所見）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	特定非営利活動法人鳥の劇場
施設名	鳥の劇場
内定額	24,290　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書／事後評価書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価	所見
公-01	笑いながら考える世界のこれから『イワンのばか』	入場者数の実績は目標の約 62%、入場者率は目標の 68.8%に対し 43.2%となったが、評価指標は目標 75%を超える 87.6%となった。 学生・子どもの観客率の目標 25%に対し、30.3%の結果でその目標を達成できた。多くの観客に演劇の感動や深さに出会ってもらい、劇場のファンになってもらうことを目的とした事業であったが、子どもだけの来場も散見されつつ、客席の半分前後が、家族での来場であった。家族での観劇は、長く記憶に残るものであるし、幼い時からの文化施設訪問体験が重視される中で、一定の事業目的を達成したと考える。	アンケートの回収率が高く、かつ観客満足度も高かったことから、充実した内容の公演であったと認められる。集客数が目標値に達しなかったのは残念であるが、子供連れの家族の観客が多かったことも、この公演の企画意図と合っていたと思われる。
公-02	三島由紀夫生誕 100 年『熊野』	入場者数の実績は目標の約 76%、入場者率は目標の 68.8%に対し 52.8%となったが、評価指標は目標 75%を超える 93.5%となった。 新規観客者の割合 10%を目指し、達成率は 13.5%であった。 三島由紀夫生誕 100 周年の事業。日本の優れた劇作家を紹介するとともに、本作は能を土台としたものであるので、原作能も紹介しながら実施。日中韓の演劇祭「BeSeTo 演劇祭」の中で実施し、中国や韓国の学生にも作品を紹介することができた。観客の評価 5 段階評価の 4 以上が 93.5%と非常に高い評価であった。	アンケートの観客満足度は高かったが、回収率は 18%と、公－01, 公―03 に比較して低かった。BeSeTo 演劇祭のプログラムという位置づけの上演であったのに、集客が目標に達しえなかった要因について、分析が必要だと思われる。

公-03	シェイクスピアの美しきラブコメ『十二夜』	入場者数の実績は目標の約 62%、入場者率は目標の 62.5%に対し 44.2%となったが、評価指標は目標 75%を超える 96%となった。 新規観客者の割合 10%を目指し、達成率は 27.6%であった。 レジデントカンパニー鳥の劇場がシェイクスピア作品を取り上げるのは初めてであったが、観客、専門家からも非常に高い評価を得た。幅広い世代の集客もあり、地域文化拠点として意義のある活動となった。また、フランス人美術家による舞台美術、イギリス人作曲家によるオリジナル楽曲も大変好評で、国際的な人材交流拠点としても意味ある活動となった。新規観客の率が 27.6%であったことも注目すべき結果で、観客の輪の拡大のために意味ある事業であった。「シェイクスピア」という名前が、多くの人に響くのだということは、今後の活動のために大きな示唆をもらったと、あらためて感じている。観客の評価 5 段階評価の 4 以上が 96%と非常に高い評価であった。	レジデントカンパニーである鳥の劇場が初めてシェイクスピア作品に挑んだ意欲作。アンケートの回収率が高く、観客の満足度も高かったことから、充実した内容の公演であったと認められる。入場者が目標に達しえなかったのは残念である。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（２）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※１）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。
	・自由設定の観点（任意）（※２）

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
公演事業	事業番号公-０１「学生・子どもの観客率」（チケットにより判断）	学生・子どもの観客率　２５％	30.3%（チケット 667 枚のうち学生・子ども 202 枚）
	事業番号公-０２･０３「新規観客者の割合」（アンケート回答より）	新規観客者の割合　１０％	公-02 は 13.5% 公-03 は 27.6%
人材養成事業	事業番号人-０１：参加者が事業への参加をへて､「学ぶことの楽しみ」を感じることができたか（インタビュー）	【小鳥の学校】 「学ぶ楽しみを感じた」という回答を過半数得る	参加者全員が「学ぶ楽しみを感じた」と回答
	事業番号人-０２：参加者が事業へ参加して、充実した時間を過ごすことができたかどうか」（インタビュー）	【おとなな劇場】 「学ぶ喜びを感じた」という回答を過半数得る	参加者 15 人中 14 人がアンケート回答し､「学ぶ喜びを感じた」、十分あてはまる 10 人、ほぼあてはまる 3 人

普及啓発事業	事業番号普-01：参加者の満足度（アンケート）	【ワークショップ事業】 回収されたアンケート5段階の「満足以上（満足・大変満足）」が過半数得る	参加者 35 人中 33 人が満足以上と回答
	事業番号普-02：参加者が事業において演じることの喜びを感じたかどうか（アンケート）	【タイムスリップツアー】 「演じることの喜びを感じた」かどうかで、回収されたアンケート5段階の「満足以上（満足・大変満足）」が過半数得る	参加者9人がアンケートに回答し、9人が満足以上の回答
	事業番号普-03：参加者が事業において演じることの喜びを感じたかどうか（アンケート）	【ほんきのきもだめし】 「演じることの喜びを感じた」かどうかで、回収されたアンケート5段階の「満足以上（満足・大変満足）」が過半数得る	参加者 22 人中 21 人が満足以上の回答
	事業番号普-04：参加者が事業において演劇のおもしろさを感じたかどうか（アンケート）	【演劇クラブ】 「演劇のおもしろさを感じた」かどうかで、回収されたアンケート5段階の「満足以上（満足・大変満足）」が過半数得る	参加者 5 人中 5 人が満足以上の回答
共生社会事業			

（※3）・（※4）…R7年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	全く傾向の異なる三作品を観客に提供した。三つの公演事業はいずれも、芸術監督中島諒人の演出で、レジデントカンパニー鳥の劇場により上演された。観客の満足度は、5 段階評価による 4 以上の評価が、公演事業 01『イワンのばか』は 87%、公演事業 02『熊野』は 93.5%、公演事業 03『十二夜』は 96%と高い評価を得た。 当劇場の【ミッション 1】感動、共感で心をつなぐ、そして【ミッション 3】異なるものと出会う　を実現するために、公演事業は核となるものである。また、人材養成事業に参加している人たちも観劇を通じて大きな刺激を得ることとなり、【ミッション 2】創作の力で人を育てる　のためにも大きな役割を果たすことができた。 質の高い演劇作品を観客に届けることが劇場活動の柱であり、それをレジデントカンパニーの活動が支えることは、地域のためにも非常に意義のあることである。
所見	レジデントカンパニーによる 3 公演のうち『十二夜』は、これまでの劇団の多団体との交流の積み重ねのうえに、客演を得て、フランス人美術家を舞台美術に招いて、初めてのシェイクスピア作品に挑んだ意欲作であった。いずれも観客の満足度は高く創造性が評価できる。人口の少ない鳥取県の中山間地にあり、公共交通機関の利用が限られているなかで、集客していくためには、地域に同劇場の評判が浸透していなければ難しいと思うが、20 周年を迎え、一定の認知度は得られているのではないかと推察する。
対応・追加情報 （所見・意見交換を受けて）	

人材養成事業	
自己評価	【ミッション２】創作の力で人を育てる　のために、小５から中３までを対象とした「小鳥の学校」と65歳以上を対象とした「おとなな劇場」事業を実施。 「小鳥の学校」は、地域での知名度も年々高まり、県域全体から参加者があった。演劇創作を通じて、自分を知り、自分で考え、他者と共同しながら行動することを学んでもらった。本年取り上げたメーテルリンク「青い鳥」は、人生の意味を考えさせる豊かさと深さを持ったテキストで、レジデントカンパニーの俳優や芸術監督が、子どもたちに問いを投げかけながら作品創作を進めた。参加者、保護者の満足度は非常に高く、最後の発表公演の観客の評価も非常に高かった。 「おとなな劇場」は令和６年度よりも参加者が増え、参加者一人ひとりの意欲も年々高まっている。最高齢は90歳代で、参加者みなが生き生きとリーディング公演に取り組んだ。女性が中心だが、男性の参加者も少しずつ増えており、高齢世代に創作参加の喜びを届けるとともに、同世代や家族が多い観客にも「年を取ってもまだまだ元気にやれる」という生きる力を持ってもらえている。さらに現在の高齢化した状況にあっては、社会活動の担い手として健康な高齢者に期待される部分も少なくない。70歳代の参加者はまだまだ活力にあふれた人が多く、そういう状況の方々に創作参加を通じて、社会とのつながりの意識を新たにしてもらう効果もあった。
所見	「小鳥の学校」の参加者は、鹿野町の子供より県内の遠方から通ってきていることから、当該事業が県内でニーズの高い事業であり、これまでの実績からも期待度、信頼度の高い事業であることがうかがえる。芸術監督およびレジデントカンパニーの俳優が、子供たちの自発性を最大限に引き出すようファシリテーションをしており、必ずしも演劇・劇場の専門家養成に結びつかないとしても、地域を支える人づくりにつながる事業であり、優れた取組みだと評価できる。一方、「おとなな劇場」は、高齢者の活力を顕在化させる事業としては充実した内容だったと思うが、専門家養成というよりは、普及啓発、共生社会の基盤づくりにつながる事業としての性格が強いのではないだろうか。
対応・追加情報 （所見・意見交換を受けて）	「おとなな劇場」は令和８年度から共生社会事業に応募し採択された。

普及啓発事業

自己評価	「みんなで楽しもう！表現ワークショップ」 劇場が演劇創作のために持つ、演技・衣装・映像のテクニックを、親子を中心に体験し楽しんでもらうことができた。地域のアートセンターとして、劇場にしかできない機会提供ができた。 「鹿野タイムスリップツアー『チドリの夢 デラックス』」 地域の歴史や暮らした人の実際の出来事を踏まえた市民参加の劇を、劇場周辺の町内を観客と共に回遊しながら上演した。演劇に興味を持っている小学生から70代の人までが役者として参加した。戦前から戦後の昭和の風俗を交えながらの上演は、たいへん好評だった。市民参加の芝居は週末等を中心にコツコツとリハーサルを重ねなければならず、レジデントカンパニーの存在を前提としなければ実現が難しい事業であった。 「劇場がお化け屋敷・ほんきのきもだめし」 単なるバックステージツアーでもなく、単なるお化け屋敷でもなく、劇場の機能を活かしながら、参加者の子ども達とレジデントカンパニーの俳優がいっしょに劇場をお化け屋敷化し、子どもが自分で工夫をしながらお化けとなり、地域の人と共に当日の運営をする事業。子どもの主体性を重視する点、地域の人たちも共に運営する点に本事業の特徴があった。 「劇場が身近にあることを楽しむ「演劇クラブ」運営事業」 部活動の地域以降の流れの中で地元の義務教育学校の校長からの依頼を受けて始めた事業。「誰でも参加できる」「興味を持てば深い関わりもできる」という参加者の興味に応じた参加形式が可能であることを売りとした運営となった。レジデントカンパニーの活動にも関わったり、短いオリジナル作品の創作もおこなった。不登校の子どもの参加もあり、劇場が子ども達の居場所、アジールとなるような活動ができた。
所見	４つの事業は、それぞれ異なるアプローチで演劇を身近に楽しんでもらおうという事業として工夫がこらされていた。普―０２は、鳥の演劇祭の期間中に開催され、市民から俳優を募って、劇場周辺をめぐりながら寸劇をつなげていくという企画で、地域の人々が関わりやすい事業であった。普―０３は、子ども食堂の運営団体と連携して実施されており、また、普―０４では地域の不登校の子供の居場所にもなったということで、レジデントカンパニーがあればこその企画と思われる。
対応・追加情報 （所見・意見交換を受けて）	

共生社会事業	
自己評価	
所見	
対応・追加情報 （所見・意見交換を受けて）	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	・公演事業 03 において、フランス人美術家に舞台美術を、イギリス人音楽家に劇中歌三曲の作曲を依頼した。フランス人美術家は一カ月劇場に滞在し、リハーサルを見ながら一緒に製作を進めた。初めの２回の公演を見て帰ったが、アフタートークにも参加し、観客の質問にも応答した。フランス人の日本文化への関心は高く、日本で大正時代に発行された「配色辞典」という本（フランスで販売されていた）を参考に舞台美術の配色を検討していたのが印象的だった。舞台美術、音楽、共に観客に大変好評で、日仏、日英の文化交流を観客も十分楽しんでくれた。 ・公演事業 01－03 においては、観客に手元字幕（タブレットに英語字幕が自動的に表示される）を、普及啓発事業 02 においては場面を説明する紙のプリントアウトを観客に配布した。手元字幕利用者数は 42 人。紙のプリントアウト利用者は韓国語約１０人、中国語約５人。 ・また本補助事業外の事業として、毎年国際演劇祭を開催している。令和７年度は、日本・中国・韓国の演劇祭 BeSeTo 演劇祭（毎年三ヶ国で持ち回りで三年に一回日本で開催）と毎年開催の鳥の演劇祭を同時開催した。中国、韓国に加えて、イギリスから二つの作品を招いた。円安やスタッフ人件費の高騰で費用負担が重くのしかかるところであるが、芸術文化の価値を重んじる国としての日本の国際的プレゼンスの向上に一定の貢献ができたと考える。
所見	鳥の劇場は、日本・中国・韓国３カ国の演劇人が毎年持ち回りで開催している「BeSeTo 演劇祭」の日本代表であり、国際芸術祭の開催実績を有する SCOT、SPAC とも交流があり、そうしたネットワークを活用して国際演劇祭を開催している。鳥取県の中山間地で、NPO 法人が設置した劇場で国際的な活動を継続的に行っていることは、地域の「世界への窓」としての機能をもつ劇場として存続してきたことで、特筆に値する。
対応・追加情報（所見・意見交換を受けて）	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・（文化拠点）地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・（地域連携）地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・（児童生徒への機会提供）次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
（文化拠点） A .地域の一般市民参加型の公演事業回数	A　年間のべ５回以上	公演事業数７　公演回数 11 回
B .地域の団体が主催するイベントの利用実施数	B　年間のべ４回以上	10 回
C .年間を通じてのボランティアの数	C　年間のべ５０人以上	44 人
（地域連携） D .地域で実施されるイベントや会合への参加数	D　年間のべ１５回以上	48 回
E .地域の学校からの職場体験の受け入れ人数	E　年間のべ２人以上	３人
（子どもへの機会提供） F .学校に出向く/学校から劇場へ来場する公演事業数	F　年間のべ１５回以上	17 回
G .子どもを対象とした体験ワークショップの実施数	G　年間のべ１０回以上	126 回（小鳥の学校・演劇クラブも含む）

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	・（文化拠点）として 公演事業３つは、それぞれに地域の観客のニーズを踏まえて、多様な傾向の作品を提供した。また、普及02のタイムスリップツアーは、地域の歴史や出来事、生きた人を多様に踏まえ、地域住民も参加した地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用した事業であった。 ・（地域連携）のために 普及03事業は、地域のこども食堂を運営する団体等と連携して地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組む事業であった。また人材02も高齢者の生きる意欲を刺激し、地域コミュニティとの関わりを促進する事業で、社会課題の解決に取り組むものであった。 ・（児童生徒への機会提供）のために 公演事業は、どれも子どもために低廉な価格（18歳以下500円）でチケットを提供している。大人向けの公演にも子どもの姿が少なくない。また学校招待を行い、親といっしょに劇場に来られない子どものための鑑賞機会を提供している。 人材養成01・普及01―04の5事業は、まさに子どもに演劇体験の機会を提供している。特に人材養成02の「小鳥の学校」は、時代を担う子どものための創作体験機会として大きな機能を果たしており、高校生以上となった過去の参加者もサポートスタッフとして加わり、子どもの成長のためのコミュニティとなっている。事業卒業者は、それぞれに能動的に人生を切り開いておりとても頼もしい。
所見	指標Cの年間を通じてのボランティアの数は、目標値に届かなかったとはいえ、実際に人口減少が著しい地域でボランティアを募りながら国際演劇祭を運営している手腕は、十分な評価に値する。鹿野町にとって、鳥の劇場の定着が、ほかの事業者の移入のきっかけにもなっているようで、地域コミュニティの維持・発展になくてはならない存在という認知が進んでいると見受けられた。今後、これまで実施してきた子供を対象とした事業の成果が、何等かの形で地域に還元されることも期待される。
対応・追加情報 （所見・意見交換を受けて）	

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。
	・自由設定の観点（任意）（※2）

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
（プログラムの多様さ） A.プログラムの種類・形態の多様さ	A　4 種類以上	8 種類以上
（参画者の多様さ） B.福祉施設・特別支援学校・公民館等での読み聞かせ・ワークショップ等の実施箇所数	B　5 箇所以上	9 箇所
C.託児サービスを行っている公演数	C　公演事業の 9 割以上	92%
D.公演に出演する障害のある人の数	D　年間のべ 5 人以上	24 人
（アクセシビリティ） E.情報保障（日本語の字幕タブレット）の利用数	E　年間のべ 50 人以上	日本語字幕タブレット 42 人 （英語 27・韓国語 1・中国語 2）
F.英語版のウェブサイト	F　作成・稼働はしているが、チケット予約に結びつくような内容に更新したい	JTB に仕事を発注する機会があり、チケット販売の方法について、現在検討している。
（スタッフ育成） G. 芸術を創造する環境におけるハラスメント講習の受講者率	G　スタッフの 9 割が受講	全員受講

（※3）・（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	演劇愛好家のためにも、そしてそうでない人のためにも届くプログラムを提供し、劇場を自分のための場所だと思ってもらうことは、当劇場が常に目指してきたことである。令和７年度も本補助事業外の演劇祭も含みながら、多様な公演プログラムを提供した。また市民参加の機会や、高齢者・子どものための参加プログラムも提供できた。 鳥取県や鳥取市の支援を得ながら、学校や福祉施設に小さい上演を届けたり、ワークショップを行う事業も実施した（実施箇所数９箇所）。別掲の企業研修等を通じて、演劇の魅力や価値に触れてくれている人も増えている。 障害のある人との関わりは、本補助事業外であるが、鳥取県の事業で、障害のある人といっしょに演劇創作を行い、当劇場で上演したり出張上演も行なっている（令和７年度は大阪・関西万博でも上演を行った）。観劇の敷居を低くする事業も行っており、コロナ禍で中断していた無料での託児サービスを７年度は再開した。またセリフが聞き取りづらい人のための日本語字幕提供サービス（英語字幕の提供と同様に iPod を使用）も実施している。 施設のバリアフリー化も徹底し、何らかの不自由を抱える観客のための優先入場も実施している。
所見	国際交流に資する事業、また障害のある人々との活動、子供、青少年に向けた多彩な事業など、多様なプログラムを提供しており、また対象者ごとに参加しやすくなるようなサービス、ケアが提供されている。交通の便が悪い地域にあって送迎サービスの提供は不可欠であり、劇団員等が送迎も担うなど、運営上の工夫を重ねながらアクセシビリティ向上に努めている点が評価できる。
対応・追加情報 （所見・意見交換を受けて）	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	① 創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・芸術的視点を活用した観光・教育による地域への貢献。

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
A .学校の教科における表現体験ワークショップの実施回数	A .年間のべ 50 回以上	78 回
B .文化祭のステージ発表の支援回数	B .年間のべ１０回以上	19 回
C .企業に勤める社会人向けの研修事業	C .年間のべ５回以上	3 回
D .地域の観光資源を活用した事業回数	D .年間２回	7 回

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

成果報告書／事後評価書　　鳥の劇場

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	・劇場に近い鳥取市立鹿野学園（小学校と中学校が一つになった義務教育学校）では、年間を通じて全学年で演劇手法を活かした表現ワークショップを実施している。学習指導要領の中で、受け身のインプット型の学びではない、探究的学習の重要度が高まる中で、表現力や思考力、協働的な力が重視され、表現ワークショップの学校教育の中での重要性が高まっており、学校を挙げての取り組みとなっており、地域からの期待も高い。同様の取り組みを、鳥取県立青谷高校でも実施しており、生徒の主体性や個性を引き出すものとして、学校から高い評価を得ており、他の高校からも引き合いがきている。 ・秋の学習発表会シーズンは、演劇の発表を行う学校からの支援依頼が年々増加している。 ・令和５年度から本格化しているのが企業研修の実施である。地域の大企業である新聞社や銀行、福祉施設の職員を対象に、職員の相互理解の促進、共に仕事をする力の強化等を目標として、演劇手法を用いた研修を、鳥取市の支援も得ながら実施している。 ・令和７年度は観光庁の補助事業でインバウンドの誘客のための事業を、演劇祭の時期に開催したがツアー催行には至らなかった。 教育について 表現力があり、自分の心・感性と言葉を使って他者とコミュニケーションできる能力は、現代を生きるすべての人にとって必要な能力であり、それはビジネスばかりでなく、地域の課題解決、ひいては民主主義社会の発展のためにも必要なことである。演劇創作は、言葉と体を使ったコミュニケーション活動であるから、その力を社会に活かす形をもっと作っていくことは、劇場の役割として求められている。まだ十分に顕在化していないこの社会からのニーズを形にしていくことは、劇場のためにも社会のためにも価値があることである。人材、費用などの点で課題は多いが、劇場活動として重点を置いていかなければならない。 観光について 演劇と観光をどうやって繋いでいくかは、難しいがやる価値のある取り組みである。観光において重視されるポイントが、その場での体験ということに移ってきている中で、演劇の教育的意味と観光をうまく繋ぐ方法を模索している。令和７年度も高齢者の出会いの場作りのために演劇ワークショップを活かすツアーをある旅行代理店が試行的に開催してくれたが、たいへん好評であった。 これからの劇場発展の可能性を、演劇創作、教育、社会包摂、そこに観光も加えて模索していきたい。
所見	教育に関して精力的に取り組んでいることに加え、観光と演劇を結び付けようという意欲をもって試行されてきたことは評価できる。演劇を観光資源にしての実践例は全国的にみても限定されるが、鳥の劇場のこれまでの活動の蓄積が活かされることが期待される。
対応・追加情報 （所見・意見交換を受けて）	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

公演事業
・各公演終了後、俳優がホワイエに出て観客を見送り、観客と共に写真を撮ったりしながら自然な交流をし、来場のリピートや情報の拡散を促した。
・「十二夜」においては、毎公演後に芸術監督がホワイエでトークを行い、シェイクスピアのテキストの魅力や、作品に込めた想いやメッセージを話し、観客からの質問にも応えた。作品理解が深まったと好評。
・「十二夜」では、ホワイエに登場人物の相関図やシェイクスピアについての情報を掲示した。幕間の休憩の間に、多くの観客がそれを見て関係性を確認しており、たいへん好評だった。

「イワンのばか」
観客アンケートより「迫力ある演技に、わくわくドキドキの連続でした。一人何役もされ、ガラッと切り替えられてその役になりきられる姿に、感動!! 動物たちの細かい仕草も目が離せませんでした。
一番心惹かれたのは、マラーニャの存在感です。周囲の状況や、兄や人々の思いを敏感に察知し、明るく振る舞い、皆にとっても癒やしの空間、マラーニャを中心にここの世界があると感じました。でも、そんなマラーニャが、自分の感情に素直に従い、思いっきり大声で泣き叫んだ最後の姿は、グッときました。マラーニャの心の成長を感じた場面でもあります。人として何が大切でどうあらねばならないのか、多くの「生きる」を学んだ熱い熱い時間でした。」

「熊野」
観客アンケートより「愛人を職業とするとユヤはプロ中のプロです。宗盛を退屈させることがありません。宗盛の生活の比重がこちらに偏ってもしかたがない。でも、私がユヤなら、それはそれでめんどくさい。若い男で息抜きもしたくなるでしょう。男に愛人あるのは権力者の象徴。女に若いツバメがあるのは罪。そんな時代に宗盛はユヤをゆるしてしまう。それほどにユヤは魅力的なのです。桜は人が手入れをしないと毎年美しい花は咲かないそうです。熊野も全ての登場人物を使って、自分の美しさを保っている。
私が鳥の劇場に来て日常の憂さを晴らすように、宗盛は熊野のところで非日常を味わっている。それは一目千本の桜を見るよりも刺激的で美しいのでしょう。
鳥の劇場で三島文学のおもしろさを教えていただきました。近代能楽集を鞄に入れてさえあれば、どこに行っても退屈することがなくて便利です。ありがとうございました。」

「十二夜」
観客のお一人より。「20 年前に来場して以来、岡山から久しぶりに来させてもらった。本当に素晴らしい劇団も成長して、大変面白かった。高齢なので、なかなか来れないが、来て良かった。どうぞ頑張って。」と話されて帰られた。

人材養成事業
小鳥の学校
・上の小学生のお子さんとお母様で観劇されたいということで、3 歳と 5 歳のお子さんの託児を申し込まれていた。託児士さんもスタンバイさせた状態ではあったが、小鳥の学校の発表公演はお子さんが演ずるので、小さなお子様でも没入して見ることができる作品であるため、「一緒に入っていただいても大丈夫です。おそらく一番前であれば、問題なくご覧いただけると思う。」とお伝えしたところ、観劇後に 3 歳と 5 歳のお子さんも全く問題なく観劇できたと、お母様からお話があった。
・当劇場の教育アドバイザーである苅宿俊文氏（青山学院大学・教育学）による観客向けのアフタートークを実施。

また参加の子ども達の保護者向けの、本事業の意味づけのトークも行った。現在の社会状況の中での本事業の人材養成的意味を多くの人に届けることができた。

おとなな劇場
・事業以外での参加者同士の交流が見受けられ、新しい同世代の繋がりが生まれたと思われる。
・継続して実施している効果だと思われるが、戯曲の解釈や演技プランについて、参加者自らのアイデアを話す機会が増えた。
・参加者からの要望で、事業後に本番の記録映像の鑑賞会を実施した。
・事業の実施期間外に、参加者が自主的に集まっての勉強会を始めた。

普及啓発事業
タイムスリップツアー
・小学生から大学生、高齢者まで幅広い参加があり、地域の歴史を知ると共に、異世代間交流の活き活きした場となった。

本気のきもだめし
・参加している子どもたちが主体となって考え、実演しているので、「疲れたけど楽しかった」「驚かすことができて楽しかった」と参加した子どもたちの満足度が高く、次年度の開催を心待ちにしている声が多く聞かれる。
・新しく建設された建物も会場として使用したことで、参加者に新しい建物を知ってもらうきっかけになった。
・遠方からの参加にも関わらず、翌週に鹿野で行われるイベントに参加したがる参加者がいた。この事業の体験が楽しかった影響と思われる。
・障がいのある大人の参加者があった。保護者である親も一緒に参加し、驚かすことを楽しんでいた。
・地域の子ども食堂を運営する団体が、本事業と同時開催で、かき氷屋さんを営業、希望する子どもも運営に関わった。「イベントには関わりたいが、お化け屋敷は怖くて。。。」という子どもが積極的に関わって営業を支えていた。

演劇クラブ
・特に演劇好きでなかった子が、読解の面白さにもだんだん気づいたようで、鳥の劇場のシェイクスピアの上演を「おもしろかったからもう一回見たい」と、2回も観に来た。

（２）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※１）	はい	はい
目標(値)（※２）	ふるさと納税を活用した県外法人からの寄付はないので、県外の法人からの、ふるさと納税制度を活用した寄付を獲得できるよう努める	
実績(値)		
団体の自己評価	地域から求められる事業は多様でありその数は増えているが、財源が十分に確保されたものは多くはない。断るのは簡単であるが、地域において劇場の果たす機能・役割を確立していくために引き受けなければならない仕事も一定数ある。このような業務を含めて活動全体を支えるためには、専門人材、そしてバックオフィスの人材の確保が必要である。鳥取県、鳥取市の補助や委託を得ながら財源を確保し、並行して地元の個人や企業からの寄付の確保に努めている。認定 NPO となり、寄付者のメリットも大きいので、この点をアピールして一層の寄付の拡大に努めている。	限られた財源の中で、いかに効果的にニーズのある場所にリーチし、同時に新しいニーズを開拓していけるかに努めている。年間の広報計画を立てて、 ・来場経験のある人にメールニュースや広報物を送る ・鳥取県内に置きチラシをしたりポスターを掲示する ・最近は SNS（Instagram 等）での発信に大きな力を注いでいる。
所見		
対応・追加情報		

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	はい	はい
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	静岡県芸術センター、鳥取県文化振興財団、石川県立音楽堂等との連携の実績はあり、今後も連携を通じてシナジーが発揮できるような事業の機会を模索していきたい。	鳥の劇場は、認定 NPO による運営なので質問で想定されている設置者はない。
所見		
対応・追加情報		

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	はい	はい
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	配置されている。	芸術監督、事務局長、理事会が連携しながらその任にあたっている。
所見		国や地方公共団体の補助金を得て、ハードとしての劇場整備に取り組んできた成果が、今後に活かされていくことを期待する。
対応・追加情報		

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	はい	はい
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	とりわけ地方においては、人材不足が顕著で、その中での困難が大きいが、専門人材の確保や育成に努めている。	職制の整理には努めているが、人材不足の中で少数の人間に仕事が集中する傾向があり、それを解消することに努めている。
所見		
対応・追加情報		

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	はい	はい
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	若年層がすぐに辞めてしまうという傾向があるが、体制を整備し若年層の雇用に努めている。	女性のリーダー職への登用に努めている。
所見		
対応・追加情報		

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	はい	はい
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	人材不足の中ではあるが、業務と日々の生活の両立ができるよう配慮している。	法令遵守を徹底している。
所見		
対応・追加情報		

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	指針を作成し、研修会を 1 回行ったが全員受講となっていない。	はい
目標(値)（※2）	ハラスメント防止のための研修会を行い、全員の受講を目指す。	
実績(値)		
団体の自己評価	指針の内容の周知・順守を徹底している。	適正な契約書を交わしている。
所見		
対応・追加情報		

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
当劇場は令和5年度から7年度にかけてデジタル田園国家都市構想の交付金を得て、新施設の建設や野外舞台の整備等が行われた。新施設は、道具や衣装の制作のための専門空間を持ち、小道具や衣装などのストックする空間も備えている。新たに年間を通じて運営するカフェ（カフェ運営を学んだ地元の人により営業）もつくられた。また、間口２０m、奥行き14mの野外舞台は、山を背景にしてこの敷地が演劇のための場所であることを宣言している。もはや廃校というイメージは全くなく、グラウンドは半分が舗装され、半分は芝生化され（芝生化は2026年6月以降実施）、劇場を中心とした公園のような場所となった。 これだけの場所が、NPO法人による演劇活動のための場所として整備された（国、鳥取県、鳥取市による補助で、当法人も一部費用を負担した）ことは、2006年から地域で継続してきた我々の活動への大きな評価であると同時に、今後の活動への地域からの大きな期待であると理解している。 人口最小県である鳥取の、しかも中山間地での活動であるので、商業的に公演を成り立たせることは不可能であるが、観客は増加しており、特に２月のシェイクスピア作品上演に反響が大きかったことは、劇場にとても大きな励ましとなった。学校教育への取り組みは、専門研究者の助言を得ながらますます発展しており、企業研修も成果を上げている。これをどのようにそれなりに収益化し、継続できるかが今後の重要な検討課題である。 社会包摂のための障害者や高齢者との取り組みも継続しており、特に障害者との事業は、国際的なつながりを拡大させている。経済的な格差が広がる中で、障害のある人や高齢者を差別する論調が強まりかねない状況の中で、皆が支え合い共に生きる、寛容で優しさのある社会を作っていくため、事業を継続し広げていかなければならない。 国際的なつながりの強さ多様さは、当劇場の強みである。地方の美しい自然の中で、演劇を通じて人々が豊かに交流し、自分を大切にし他者に寛容な関係を発展させたい。その風景の中に外国とのつながりを自然に入れ込み、２１世紀の成熟した社会のありようを具体の姿として劇場から発信していきたい。

所見
レジデントカンパニーの存在を活かして、地域おこし、社会包摂にも資する地域の劇場として、「世界への窓」ともなる劇場として活動してきた成果が、令和7年度も発揮されていたと認められる。物価高騰や進行しつつある少子高齢化の波が寄せるなかにあって、活動継続は容易ではないと思われるが、多くの団体・個人との連携や情報発信に努めることなどを通して、より多くの観客、参加者、支援者を広げる努力を続けて欲しい。

備考